

(PATENT)

Docket No.: LA-7557-102US

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:
In-Makoto Morita

Application No.: Not yet assigned

Confirmation No.:

Filed: March 30, 2004

Art Unit: N/A

For: CASE FOR A PRESS-THROUGH PACKAGE

Examiner: Not Yet Assigned

CLAIM FOR PRIORITY AND SUBMISSION OF DOCUMENTS

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Dear Sir:

Applicant hereby claims priority under 35 U.S.C. 119 based on the following prior foreign application filed in the following foreign country on the date indicated:


<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Date</u>
Japan	2003-094001	March 31, 2003

In support of this claim, a certified copy of the said original foreign application is filed herewith.

Applicant believes no fee is due with this response. However, if a fee is due, please charge our Deposit Account No. 50-0337, under Order No. LA-7557-102US from which the undersigned is authorized to draw.

Dated: March 30, 2004

Respectfully submitted,

By 
M. John Carson
Registration No.: 25,090
FULBRIGHT & JAWORSKI L.L.P.
865 South Figueroa
Twenty-Ninth Floor
Los Angeles, California 90017-2571
(213) 892-9200
(213) 680-4518 (Fax)
Attorney for Applicant

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 3月31日
Date of Application:

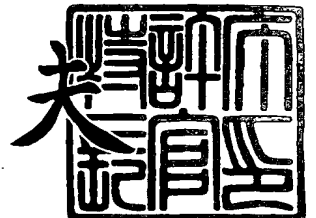
出願番号 特願2003-094001
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP2003-094001]

出願人 朝日印刷株式会社
Applicant(s): 株式会社カナエ

2004年 3月10日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康夫



出証番号 出証特2004-3018813



【書類名】 特許願

【整理番号】 030331P464

【提出日】 平成15年 3月31日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61J 7/00
B65D 83/04

【発明者】

【住所又は居所】 富山県富山市大手町 3 番 9 号 朝日印刷株式会社内

【氏名】 森田 誠

【発明者】

【住所又は居所】 富山県富山市大手町 3 番 9 号 朝日印刷株式会社内

【氏名】 渡辺 信介

【発明者】

【住所又は居所】 富山県富山市大手町 3 番 9 号 朝日印刷株式会社内

【氏名】 老田 哲夫

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市旭区高殿 4 丁目 1 6 番 1 1 号 株式会社カ
ナエ内

【氏名】 田中 勝人

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市旭区高殿 4 丁目 1 6 番 1 1 号 株式会社カ
ナエ内

【氏名】 秋村 泰憲

【特許出願人】

【識別番号】 391019500

【氏名又は名称】 朝日印刷株式会社

【特許出願人】

【識別番号】 000129057

【氏名又は名称】 株式会社カナエ



【代理人】

【識別番号】 100074332

【弁理士】

【氏名又は名称】 藤本 昇

【選任した代理人】

【識別番号】 100109427

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 活人

【選任した代理人】

【識別番号】 100114421

【弁理士】

【氏名又は名称】 葉丸 誠一

【選任した代理人】

【識別番号】 100114432

【弁理士】

【氏名又は名称】 中谷 寛昭

【選任した代理人】

【識別番号】 100114410

【弁理士】

【氏名又は名称】 大中 実

【選任した代理人】

【識別番号】 100117204

【弁理士】

【氏名又は名称】 岩田 徳哉

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 022622

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1



【物件名】	図面	1
【物件名】	要約書	1
【プルーフの要否】	要	

【書類名】 明細書

【発明の名称】 PTPシート用包装体

【特許請求の範囲】

【請求項1】 包装体本体が、二片を重合させて該二片間にPTPシートを収納可能に構成され、且つ該PTPシートをスライド可能とすべく前記一片にはPTPシートの薬剤を収容する長孔が形成されてなり、しかも該長孔に対向する前記他片の所定位置には薬剤を取り出すべく開口可能な取り出し手段を備えてなることを特徴とするPTPシート用包装体。

【請求項2】 前記包装体本体に開閉自在に蓋体が設けられ、且つ該蓋体の開閉動作と前記PTPシートのスライド動作が連動するように構成されてなる請求項1記載のPTPシート用包装体。

【請求項3】 前記蓋体から連結片が延設され、該連結片は、先端側が前記PTPシートに取り付けられると共に、蓋体の開閉動作に応じて湾曲又は屈曲自在に構成されてなる請求項2記載のPTPシート用包装体。

【請求項4】 前記PTPシートの薬剤が取り出し手段の位置と一致したことを認識し得る確認手段を備えてなる請求項1乃至3の何れに記載のPTPシート用包装体。

【請求項5】 前記取り出し手段が、ミシン目を有する取り出し部である請求項1乃至4の何れかに記載のPTPシート用包装体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、医薬品包装の分野に於いて、固形剤包装用として一般に使用されているPTP(Press Through Package)シートを包装するための包装体に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、この種の包装体としては、例えば特許文献1所載の発明が存在する。

【0003】

即ち、この従来の包装体は図7に示すように、相互に重合される二片2a, 3a間にPTPシート4aを挟持固定して収納するものであり、その一片2aにはPTPシート4aの薬剤6cを収容可能な孔23が形成されると共に、収容された薬剤6aに対向して他片3aには薬剤6cを取り出すための取り出し孔24が開口されている。また、各片2a, 3aには使用上の注意や服薬履歴等の記載が可能で、各種情報を使用者、医師、薬剤師等に確実に伝達し得るように配慮がなされている。

【0004】

そして、実際に包装体から薬剤6cを取り出す場合は、包装体の一片2a側から薬剤6cを押圧することによりPTPシート4aの裏面側のアルミ箔を破って薬剤6cが取り出される。

【0005】

【特許文献1】

特開平10-59415号公報

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、前記従来の包装体に於いては、薬剤6cを押圧するだけで容易にこれを取り出すことができるため、手が届くところに置いてあると子供等が薬剤6cを誤飲する危険性が高いという大なる問題点を有していたのである。

【0007】

また、他片3aには薬剤6cと対向して取り出し孔24が設けられているので、その流通過程等に於いて薬剤6cが不用意に押圧力を受けて、外部へ離脱するという難点もあった。

【0008】

それ故に、本発明は上記従来の問題点を解決すべくなされたものであり、PTPシートの薬剤の取り出しを規制できるように包装することにより、子供等の薬剤の誤飲という事態を適切に回避し、安全且つ適正な薬剤の服用及び管理に寄与することを課題とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

即ち、上記課題を解決するために本発明が採った手段は、包装体本体が、二片を重合させて該二片間に P T P シートを収納可能に構成され、且つ該 P T P シートをスライド可能とすべく前記一片には P T P シートの薬剤を収容する長孔が形成されてなり、しかも該長孔に対向する前記他片の所定位置には薬剤を取り出すべく開口可能な取り出し手段を備えてなる点にある。

【0 0 1 0】

また、請求項 2 に記載の発明のように、前記包装体本体に開閉自在に蓋体を設け、且つ該蓋体の開閉動作と前記 P T P シートのスライド動作が連動するように構成しても構わない。

【0 0 1 1】

そして、請求項 2 に記載の発明にあっては、請求項 3 に記載の発明の如く、前記蓋体から連結片が延設され、該連結片は、先端側が前記 P T P シートに取り付けられると共に、蓋体の開閉動作に応じて湾曲又は屈曲自在に構成することが可能である。

【0 0 1 2】

更には、請求項 4 に記載の発明の如く、前記 P T P シートの薬剤が他片に設けた取り出し手段の位置と一致したことを認識し得る確認手段を備えさせてもよい。また、前記取り出し手段は例えば請求項 5 に記載の発明のように、ミシン目を有する取り出し部で構成することが可能である。

【0 0 1 3】

従って、上記課題を解決するための手段に於いて、P T P シートの薬剤の取り出しを規制する場合には、包装体本体に対して P T P シートの薬剤を長孔に沿ってスライドさせて、該薬剤が包装体本体の他片に設けた取り出し手段の位置と一致しないように配置すればよい。一方、薬剤を取り出す場合は、該薬剤が取り出し手段と一致するように P T P シートをスライドさせた後、薬剤を押圧すれば前記取り出し手段が開口して薬剤が取り出せることとなる。

【0 0 1 4】

また、請求項 2 に記載の発明に於いては、蓋体の開閉動作によりこれと連動し

て P T P シートもスライドすることとなるが、この蓋体の全開時等に薬剤と前記取り出し手段とが一致しないように設定することが可能となる。

【0015】

そして、請求項 3 に記載の発明に於いては、連結片を介して蓋体の開閉動作と P T P シートのスライド動作が連動するが、蓋体を閉じる際、P T P シートがある程度移動した後は、連結片が湾曲或いは屈曲して、蓋体の閉動作のみ単独で行われることとなる。そこで、蓋体の開閉動作に伴う P T P シートのスライド範囲においては薬剤と取り出し手段とが一致せず、蓋体がある程度閉じた状態で P T P シートをスライドさせることにより薬剤と取り出し手段とが一致するように設定することが可能となる。

【0016】

更に、請求項 4 に記載の発明では、確認手段により確認しながら P T P シートをスライドさせて、その薬剤と取り出し手段の位置とを一致させた後、薬剤を取り出すことができる。また、請求項 5 に記載した発明にあっては、薬剤を取り出すべく該薬剤を押圧すると、ミシン目が破断して取り出し部が開口されて薬剤を取り出せることとなる。

【0017】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施形態について図面に従って説明する。

【0018】

(第 1 実施形態)

図 1 に於いて、1 は厚紙等からなる正面矩形状の包装体本体で、該包装体本体 1 は P T P シート用包装体の展開図を示す図 2 のように周縁が重合接着される二片 2, 3 からなり、該二片 2, 3 間には P T P シート 4 が収納される。5…は包装体本体 1 に対して P T P シート 4 がスライドできるように、その薬剤 6 が外部に突出した状態で収容される長孔で、包装体本体 1 の一片 2 に所定間隔を有して複数開設されている。7 は前記各長孔 5 に対向する他片 3 の所定位置に形成した取り出し手段としての取り出し部を示し、外周にミシン目 8 が形成された構成からなり、取り出し部 7 は前記長孔 5 と対向させて複数並設されている。9 は包装

体本体 1 の一端部にヒンジ片 1 0 を介して開閉自在に設けた蓋体であり、図 2 のように相互に重合接着される二片 1 1, 1 2 からなる。

【 0 0 1 9 】

尚、本実施形態に係る P T P シート用包装体は、P T P シート 4 の薬剤 6 の位置が前記取り出し部 7 の位置と一致したことを外部から認識し得る次のような 2 種類の確認手段を備えている。

【 0 0 2 0 】

即ち、第 1 の確認手段は、前記一片 2 の上下端部側に夫々長楕円状の確認孔 1 3 を開設し、且つ該確認孔 1 3 の中央を長手方向に沿って P T P シート 4 の上下端部が夫々配置されるように構成すると共に、該 P T P シート 4 の所定位置に確認孔 1 3 から目視可能な目印 1 4 を設けて、該目印 1 4 が確認孔 1 3 と一致した時に前記薬剤 6 が取り出し部 7 の上方位置に配置されるようにしたものである。

【 0 0 2 1 】

また、第 2 の確認手段は、一片 2 の長孔 5 の上下内周面に複数の凸部 1 5 を対向形成して、該凸部 1 5 間に P T P シート 4 の薬剤 6 を移動させた時に、該薬剤 6 の位置が前記取り出し部 7 の位置と一致するようにしたものである。

【 0 0 2 2 】

本実施形態は以上のような構成からなるが、通常は子供や高齢者等が不用意に薬剤 6 を取り出せないような設定にしておく。即ち、P T P シート 4 の目印 1 4 が一片 2 の確認孔 1 3 と一致しないように該 P T P シート 4 の薬剤 6 を長孔 5 に沿ってスライドするか、或いは各薬剤 6 が長孔 5 の対向する凸部 1 5 間に配置されないようにスライドさせる。これは何れを基準にして移動させてもよく、何れの場合も薬剤 6 が取り出し部 7 の位置と一致せず、他片 3 の存在により薬剤 6 を押圧してもこれを取り出すことはできない。

【 0 0 2 3 】

従って、子供等が不用意に P T P シート 4 から薬剤 6 を取り出して誤飲するようなことを確実に防止でき、安全且つ適切に薬剤 6 を保護者等が管理し得ることとなる。

【 0 0 2 4 】

一方、薬剤 6 を服用すべく P T P シート 4 から取り出す場合は、上記した操作とは逆に P T P シート 4 の目印 1 4 が確認孔 1 3 と一致するように該 P T P シート 4 の薬剤 6 をスライドさせるか、各薬剤 6 が長孔 5 の凸部 1 5 間に配置されるようにスライドさせればよい。これにより薬剤 6 が取り出し部 7 の位置と一致し、薬剤 6 を押圧すると P T P シート 4 の裏面のアルミ箔が破れると共に、取り出し部 7 の外周のミシン目 8 が破断して他片 3 に開口孔が形成され、この開口孔から薬剤 6 を取り出すことができる。

【 0 0 2 5 】

尚、この場合に於いて取り出し部 7 を破断するには一定以上の押圧力を要するため、子供等が一人で薬剤 6 を取り出すことに規制がかかり、保護者等を介して薬剤 6 を適切に与えることができ、誤飲防止に寄与し得ると共に、包装体の流通过程に於いても薬剤 6 が P T P シート 4 から不用意に離脱するようなこともなくなる。

【 0 0 2 6 】

また、包装体本体 1 に P T P シート 4 をセットする際には、包装体本体 1 の長孔 5 が P T P シート 4 の各薬剤 6 のガイド的な役割を果たして所定位置に位置決め配置することができるため、一連の組立作業が容易に且つ効率良く行えるという製造上の利点もある。

【 0 0 2 7 】

尚、上記実施形態に於いては、包装体を包装体本体 1 と蓋体 9 とで構成したが、蓋体 9 は必要に応じて設ければよく、省略可能である。

【 0 0 2 8 】

また、取り出し手段としての取り出し部 7 の形成位置も上記実施形態に限定されるものではなく、例えば長孔 5 の右端や左端位置に対向して取り出し部 7 を設けてもよく、その具体的な位置は問わない。

【 0 0 2 9 】

更に、第 1 及び第 2 確認手段は必ずしも設ける必要はない。

【 0 0 3 0 】

(第 2 実施形態)

次に、P T P シート 4 のスライド動作が次のように蓋体 8 の開閉動作と連動するように構成することも可能である。尚、第 1 実施形態と同様の構成からなる部位については詳細な説明は省略し、以下相違点のみについて説明する。

【0 0 3 1】

図 3 乃至図 6 に於いて、1 6 は包装体本体 1 の一片 2 の端部中央に所定間隔を有して形成した切込を示し、該切込 1 6 間は舌片 1 7 のみが残るように切欠いている。1 8 は両端部に切込 1 9 を入れて蓋体 9 の一片 1 1 に形成した切込片で、その基端部には折り目 2 0 が形成されている。2 1 は切込片 1 8 の先端部に延設した連結片で、該連結片 2 1 の幅は前記包装体本体 1 の切込 1 6 の間隔よりも若干小なる寸法に設定されてなり、該切込 1 6 を介して連結片 2 1 の先端部は図 5 のように P T P シート 4 の一端部に接着される。2 2 は連結片 2 1 に設けた折り目で、該折り目 2 2 は蓋体 9 を閉じる際にその折り線となる蓋体 9 の一端部と略一致する位置に形成してなる。

【0 0 3 2】

尚、包装体本体 1 の他片 3 に設けられる取り出し部 7 は、蓋体 9 の全開及び全閉の時には薬剤 6 と一致しないような位置に形成しており、本実施形態では右側に位置する各薬剤 6 を長孔 5 の右端に移動した際に両者が一致するように設定している。また、蓋体 9 の全開時には P T P シート 4 の左側に位置する各薬剤 6 a が長孔 5 の左端にスライドし、全閉時には右側の各薬剤 6 b は長孔 5 の中央付近まで移動するように前記連結片 2 1 の長さ寸法を設定しており、この中央付近位置に薬剤 6 b が移動した後は、蓋体 9 の開閉動作と P T P シート 4 のスライド動作は連動せず、蓋体 9 の開閉動作のみ単独で行われることとなる。

【0 0 3 3】

本実施形態は以上のような構成からなるが、蓋体 9 の全閉から全開に至る迄の間に一切薬剤 6 と取り出し部 7 とが一致することはないため、前記第 1 実施形態の場合と同様、薬剤 6 の取り出しが規制されて、子供等による薬剤 6 の不用意な誤飲を適切に防止することができる。

【0 0 3 4】

そして、実際に薬剤 6 を P T P シート 4 から取り出して服用する場合は、図 6

のように蓋体 9 を若干開いた状態で P T P シート 4 の薬剤 6 を指で矢印 A 方向へ長孔 5 の右端側にスライドさせればよい。これにより、P T P シート 4 及び連結片 21 が包装体本体 1 の二片 2, 3 間をスライドすると共に、その引張力を受けて蓋体 9 に設けた切込片 18 がその折り目 20 を中心にして回転するため、右側に位置する各薬剤 6 b を長孔 5 の右端にまで移動させることが可能になるのである。薬剤 6 は上側から矢印 B 方向に押圧して取り出す。

【0035】

このような薬剤 6 の取り出し操作を採用することにより、子供等にとっては薬剤 6 の取り出しが一層困難なものとなるため、より確実な誤飲防止、薬剤 6 の適切な管理が行えることとなる。

【0036】

また、薬剤 6 を取り出した後に該薬剤 6 と取り出し部 7 とが一致しないように元の位置に戻す場合は、蓋体 9 を全開させればよい。その際に連結片 21 は切込片 18 により上向きの引張力を受けることとなるが、包装体本体 1 の一片 2 には舌片 17 が設けられてなるため、該舌片 17 が上向きに開いてスムーズに蓋体 9 を全開することができると共に、包装体本体 1 が破断するというようなことも防止できる。

【0037】

尚、第 2 実施形態に於いては、蓋体 9 の全閉から全開に至る迄の間に一切薬剤 6 と取り出し部 7 とが一致しないようにし、蓋体 9 を若干開いた状態で P T P シート 4 の薬剤 6 を長孔 5 の右端側に移動させて初めて薬剤 6 と取り出し部 7 とが一致するように構成したため、一層確実な子供等の誤飲防止が図れるという利点を得られたが、蓋体 9 の全閉から全開に至る迄の間に於いて両者が一致するようにして、薬剤 6 を取り出せるように構成しても構わない。

【0038】

また、該実施形態に於いても前記第 1 実施形態のような確認手段を設けてもよい。

【0039】

更に、上記各実施形態に於いては、取り出し手段を外周にミシン目 8 が形成さ

れた取り出し部 7 で構成したが、例えばコの字状にミシン目を形成してもよく、要は開口可能な取り出し手段であればよい。

【 0 0 4 0 】

また、本発明に係る包装体が適用可能な P T P シート 4 は上記実施形態のものに限らず、例えば薬剤を 1 個だけ収納した P T P シート 4 にも幅広く適用可能である。

【 0 0 4 1 】

更に、包装体本体 1 の一片 2 に設けられる長孔 5 の長さや形状は、薬剤 6 の形状等に応じて適宜設定すればよく、その他包装体本体 1 や蓋体 9 の形状等の各部の構成も本発明の意図する範囲内に於いて任意に設計変更可能である。

【 0 0 4 2 】

【発明の効果】

以上説明したように本発明に係る P T P シート用包装体は、包装体本体の二片間に P T P シートをスライド可能に収納することにより、その薬剤の位置を前記包装体本体の他片に設けた取り出し手段の位置と一致させないように設定できるため、薬剤の取り出しを規制することが可能となる。従って、P T P シートを固定し且つその薬剤に対向させて取り出し孔を開口した従来の包装体とは異なり、子供等が薬剤を容易に取り出すことができなくなり、その結果、子供等による薬剤の誤飲という事態の発生を適切に回避でき、安全且つ適正な薬剤の服用及び管理が可能になるという格別の効果を得るに至ったのである。

【 0 0 4 3 】

また、P T P シートの流通過程等に於いても、薬剤が不用意に押圧力を受けて、外部へ離脱するという虞もなくなる。

【 0 0 4 4 】

更に、請求項 2 に記載の発明は、包装体本体に開閉自在に蓋体を設けると共に、該蓋体の開閉動作と前記 P T P シートのスライド動作が連動するように構成することにより、蓋体の開放時には P T P シートの薬剤の位置と前記取り出し手段の位置とが一致しないように設定することが可能となるため、上述したと同様に薬剤の誤飲防止が図れる効果がある。

【0 0 4 5】

そして、請求項 3 に記載の発明は、連結片を設けることにより、蓋体の開閉動作に伴う P T P シートのスライド範囲においては薬剤と取り出し手段とが一致せず、蓋体をある程度閉じた状態で P T P シートをスライドさせることにより薬剤と取り出し手段とが一致するように設定することが可能となるため、薬剤の誤飲防止は勿論のこと、薬剤を容易に取り出すことができる。

【0 0 4 6】

更に、請求項 4 に記載の発明にあつては、P T P シートの薬剤が取り出し手段の位置と一致したことを認識し得る確認手段を備えてなるため、薬剤の取り出し時の便に供し得るという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】**【図 1】**

本発明の第一実施形態に係る P T P シート用包装体の正面図。

【図 2】

同実施形態の展開図。

【図 3】

第 2 実施形態に係る P T P シート用包装体の正面図。

【図 4】

同実施形態の展開図。

【図 5】

同実施形態の P T P シートと連結片とを接着した状態を示す正面図。

【図 6】

同実施形態の薬剤の取り出し状態を示す側面図。

【図 7】

従来の P T P シート用包装体を示す斜視図。

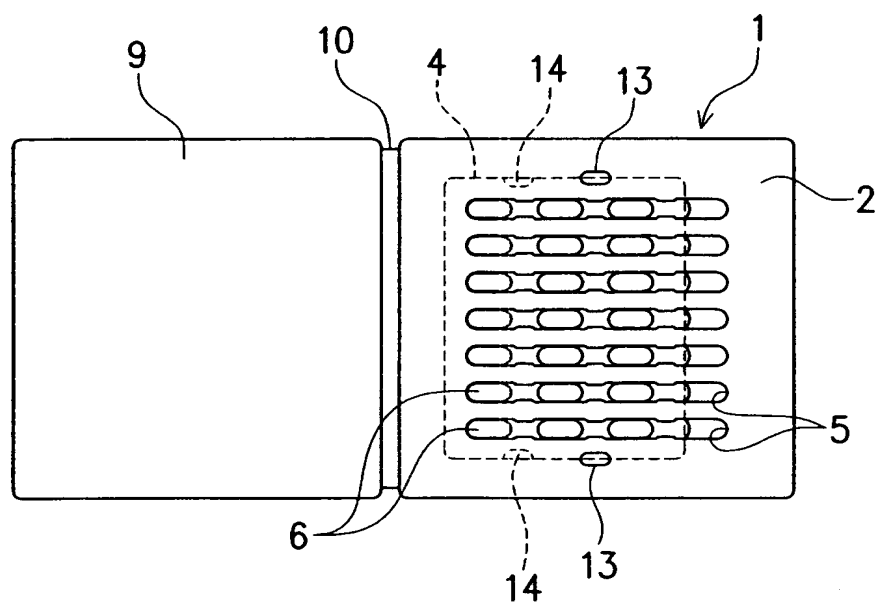
【符号の説明】

1 … 包装体本体、2 … 一片、3 … 他片、4 … P T P シート、5 … 長孔、6 … 薬剤、7 … 取り出し部、8 … ミシン目、9 … 蓋体

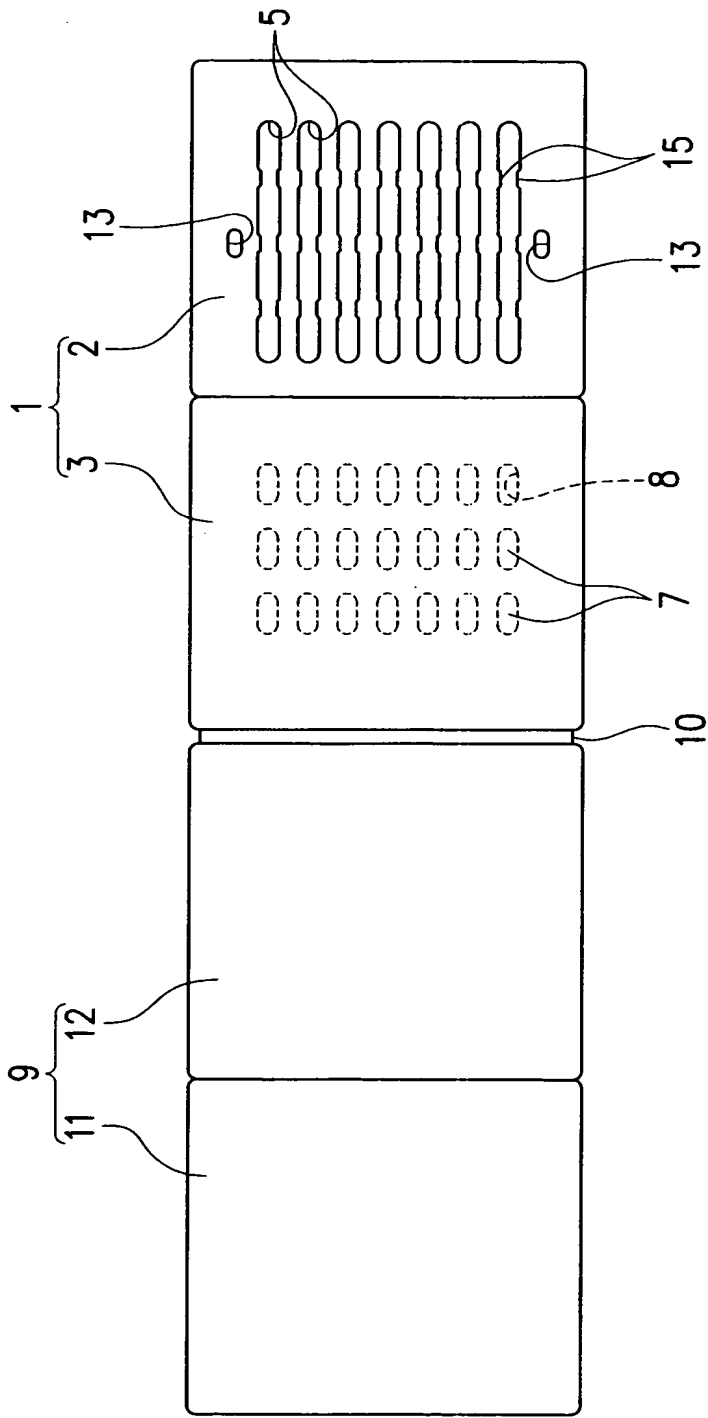
【書類名】

図面

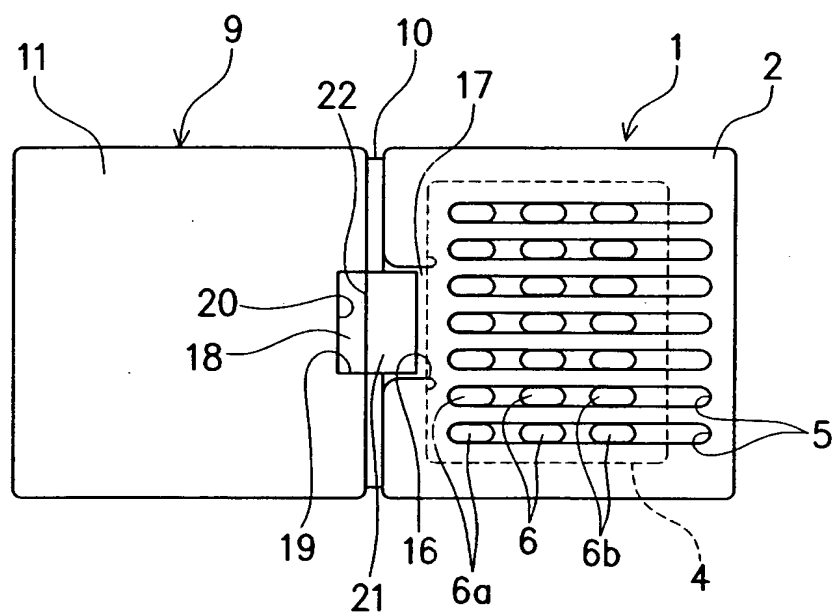
【図 1】



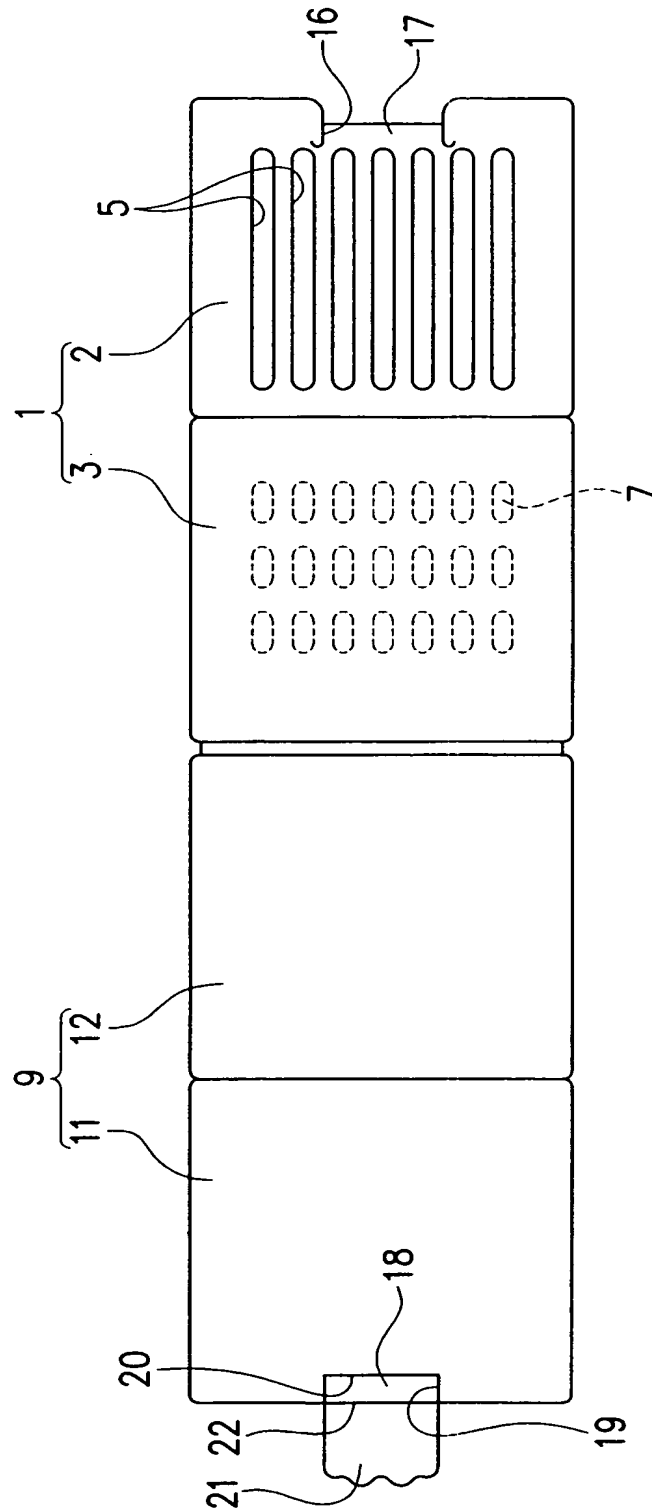
【図 2】



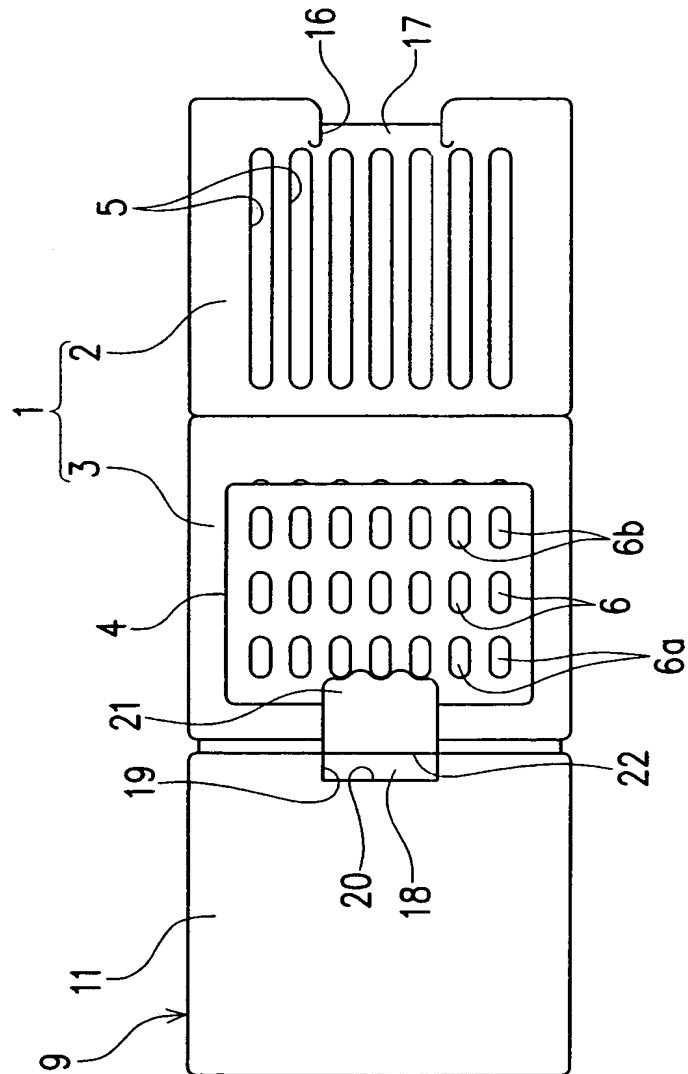
【図 3】



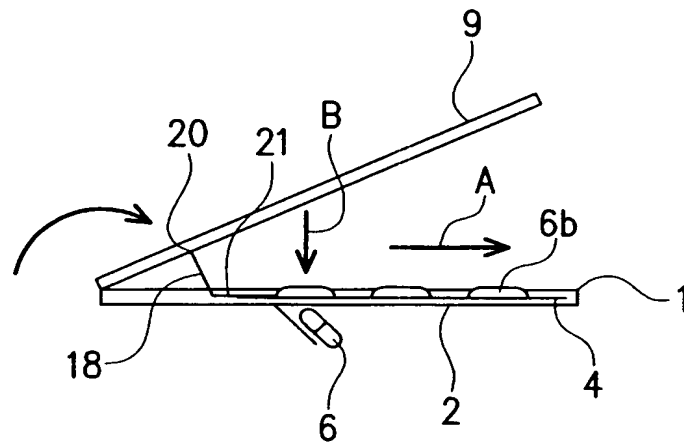
【図 4】



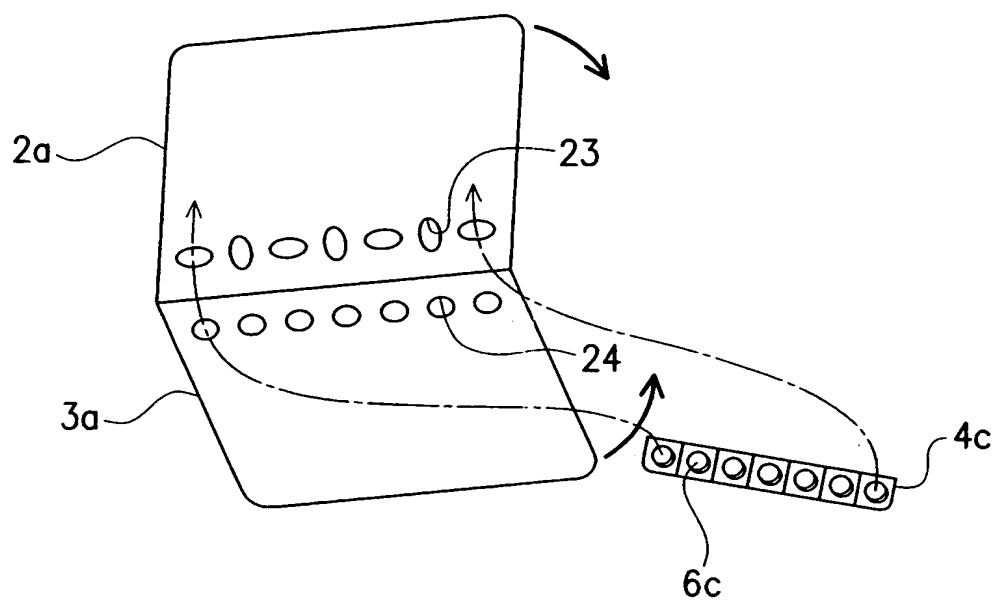
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 P T P シートの薬剤の取り出しを規制できるように包装することにより、薬剤の誤飲という事態を適切に回避し、安全且つ適正な薬剤の服用及び管理に寄与することを課題する。

【解決手段】 包装体本体が、二片を重合させて該二片間に P T P シートを収納可能に構成され、且つ該 P T P シートをスライド可能とすべく前記一片には P T P シートの薬剤を収容する長孔が形成されてなり、しかも該長孔に対向する前記他片の所定位置には薬剤を取り出すべく開口可能な取り出し手段を備えてなることを特徴とする。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 0 9 4 0 0 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [3 9 1 0 1 9 5 0 0]

1. 変更年月日	2 0 0 2 年 3 月 1 4 日
[変更理由]	住所変更
住 所	富山県富山市大手町三番九号
氏 名	朝日印刷株式会社

特願 2 0 0 3 - 0 9 4 0 0 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 1 2 9 0 5 7]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 4 日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市旭区高殿 4 丁目 1 6 番 1 1 号

氏 名 株式会社カナエ